様式④

教員活動状況報告書

提出日：　令和　6年　2月　27日
所　属：　獣医学部　産業動物内科学研究室
氏　名：　堀　香織　職位：　助教
役　職：

Ⅰ　ティーチング・ポートフォリオ

１．教育の責任（教育活動の範囲）

獣医学科に所属し、産業動物臨床を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は下記の科目の担当と、付属動物病院においての産業動物診療技術の教育、研究室生の研究指導業務である。産業動物臨床についての基礎から応用までを教えるとともに、将来獣医師として臨床現場で働くうえで必要となる技術を身に着けられるよう指導している。

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
産業動物臨床基礎実習	獣医学科	選択	1V	159
牧場実習	獣医学科	必修	2V	170
基礎・産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	4V	149
産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	5V	156
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5V	156
獣医産業動物臨床実習	獣医学科	必修	5V	134
産業動物アドバンス実習	獣医学科	自由	6V	4
総合獣医学	獣医学科	必修	6V	166

２．教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

学生には、自ら考え、自ら行動できる人間になってもらいたいと考えている。まず、獣医師である前に、社会に出ていく一人の人間としてあるべき力を身に着けてもらいたい。自ら積極的に学ぶ姿勢、疑問を解決しようと努力すること、他者とコミュニケーションをとり意見を聞くこと、自分の意思を表現すること、このような基本的な力を身に着けられるような教育を実施していきたい。

獣医師として働くうえで、目の前の問題を多方面から考察する力、自ら疑問に思い解決する力が大切である。例えば臨床現場では、誰もが考えないような変化球が目の前の症例の解決となることが多々ある。常識の範囲内の思考では解決できないことも多い。授業・実習を通して、自ら率先して考えさせ、基本を身に着けたうえで常識にとらわれない発想ができる獣医師を育てたい。産業動物臨床現場の実際を伝え、将来の志望分野に関係なく全ての学生に産業動物臨床の重要性・醍醐味を伝えるとともに、将来社会に出て即戦力と

なり得る技術を習得させることを目指したい。また、産業動物臨床を学ぶ上で、日本の畜産の現状やあり方を考えることは重要であり、学生の立場から畜産について考える場を提供していきたい。

３．教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育するうえで、ただ知識を覚えるということが無いよう、理論を理解してもらえるよう気を付けている。授業内で、なぜそうなるのかを理解してもらえるよう丁寧な説明を心掛けている。実習では、なぜそう考えるのか、学生に質問しながら学生が自らの考え説明する機会を設け、理解の定着を図っている。

アクティブラーニングについての取組

・提出課題の設定は、学生が向き合っている症例についての課題を選び、実際の症例とともに、そのバックグラウンドについても学び知識を結び付けられるようにした。
・講義後の小テストでは、授業の重要ポイントを含め、学習効果を高めた。

ICT の教育への活用

・配布資料は事前に PDF にてアップロードし、授業前に学生が確認できるようにした。
・講義内で、3D 模型図や臨床現場での写真・動画を多用し、実際の症例を視覚的に体験できるようにした。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（B）

授業スライドは、図・写真・動画を多用し、講義内で十分説明を実施し、授業スライドを見たうえで講義を受けて理解が完了するよう努めた。復習を兼ねて、講義に関係する他の分野の内容も必要に応じて説明し、理論的に理解できる様にした。授業スライドは、今後より分かりやすいものにアップデートしていきたい。実習ではその場で学生に質問をし、自ら考えさせるようにした。

②学生の理解度の把握（A）

講義後は小テストを行い、結果を見て理解度の把握に努めた。実習・症例検討会では学生に頻繁に質問し、理解できている点・できていない点を認識するようにした。

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

小テスト・レポート課題を課し、自主学習を促している。しかし、文献検索の練習も兼ねて、より考察させる課題の提示が必要だと思われる。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）

実習中は、こちらから積極的に質問やヒントを提示し、学生から質問しやすい雰囲気を

つくるよう努めている。

⑤双方向授業への工夫（B）
　講義においては、一方的講義とならないよう、適宜質問があるか呼びかけたが、講義範囲が多く、内容が多く速足の講義となってしまうことがあった。一方的講義とならず、より考えさせる内容とする必要がある。

※A（十分実施している）B（実施しているが十分でない）C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。
　実習中には、症例に関連する事項を各分野問わずクイズの様に質問し、理解していない点は説明をするようにした。一つの症例に関しても、薬理学・繁殖学・内科学など様々な方面から質問・説明をし、総合的に理解を深めるようにした。
　講義では、なぜそうなるのかを基本的な部分から説明し、丸暗記せず理論的に理解できるよう工夫した。

5.学生授業評価
①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。
② ①の結果はどうでしたか。
③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

本年度から本学に着任したため、前年度の授業評価はない。

6.学生の学修成果
①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。
　知識を覚えるだけでは定着しない。臨床症例などを通して、その症例に関連付けて知識を習得することが必要である。そのため、実習では過去に学習した様々な分野の知識を引き出すよう質問し、症例をまとめるにあたってはこのことを意識して助言を行う。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価
　学生から、動画や写真が多く授業が分かりやすかった、原理から説明してもらえてよかったとの評価を受けた。また、症例発表では良く理解しまとめていた班と、理解が足りていない班があったため、すべての班により理解してもらえるよう努めたい。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）（分量の目安：1～2 行（40 字～80 字））
　学内 FD 研究会に可能な限り対面で参加した。難しい場合にはオンデマンド資料を視聴

した。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

獣医学的な知識を身に着けるのはもちろんのこと、自ら考え、総合的に判断し、さまざまな手段を使いながら解決するという社会で必要な力を身につけられる教育を行いたい。考える力や、さまざまな場面で適応できる力を学ぶために、積極的にコミュニケーションをとり、疑問を投げかけ、一方的でない相互的な教育を行うことを目標とする。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

シラバス、配布資料、FD プログラムの参加記録、Researchmap